

新島の火山活動解説資料（平成 26 年 4 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報(平常)を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2）

式根（丹後山の西南西約 4 km）に設置してある遠望カメラによる観測では、丹後山山頂部に噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4）

9 日 15 時 44 分に新島付近を震源とするマグニチュード（M）2.2¹⁾の地震が発生し、新島村で最大震度 2 を観測しました。また、同日 16 時 05 分にも新島付近を震源とする地震マグニチュード（M）1.9 が発生し、新島村で最大震度 1 を観測しました。

新島付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、火山性微動は観測されませんでした。

1) マグニチュード（M）の値は暫定値で、後日変更することがあります。

・地殻変動の状況（図 3 - ）

GNSS²⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

2) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

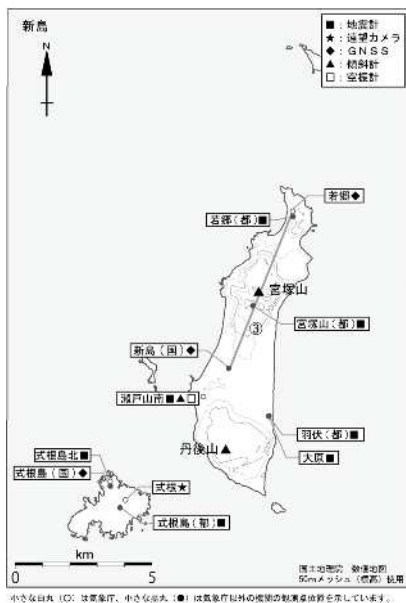


図 1 新島 観測点配置図

図 2 新島 丹後山山頂部の状況

GNSS 基線は図 3 の に対応しています。（4 月 24 日、式根遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 5 月分）は平成 26 年 6 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び東京都のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

【計数基準の変遷】
 A型地震 2010年10月1日(観測開始)～ 瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内
 BH型地震 初期 2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南振幅0.8 μ m/s以上
 変更 2013年10月1日～ 瀬戸山南振幅4.0 μ m/s以上

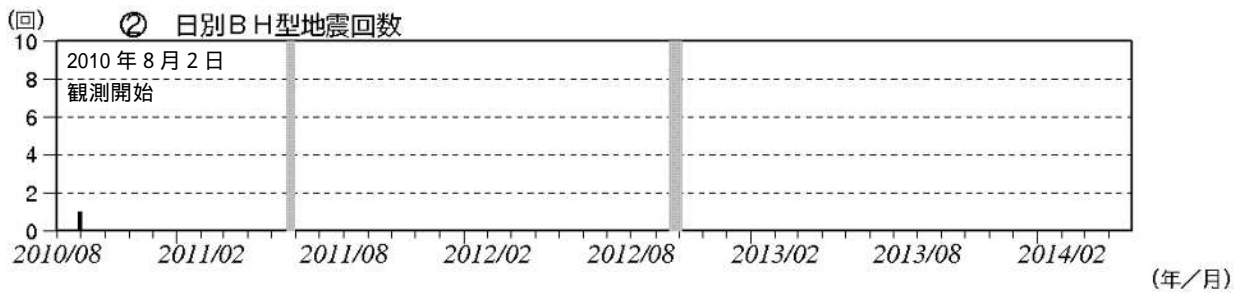
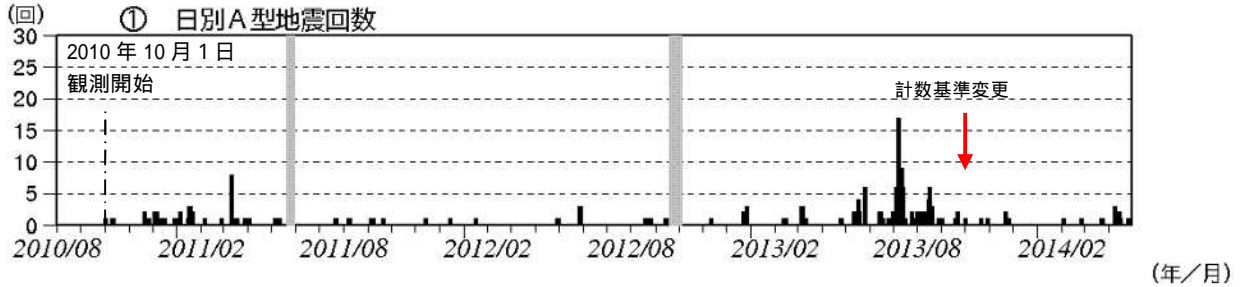


図3 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2014年4月30日)

新島周辺の日別地震回数

・図の灰色部分は機器障害のため欠測。

GNSS連続観測による基線長変化(国): 国土地理院

・は図1のGNSS基線に対応しています。

・グラフの空白部分は欠測期間を示します。

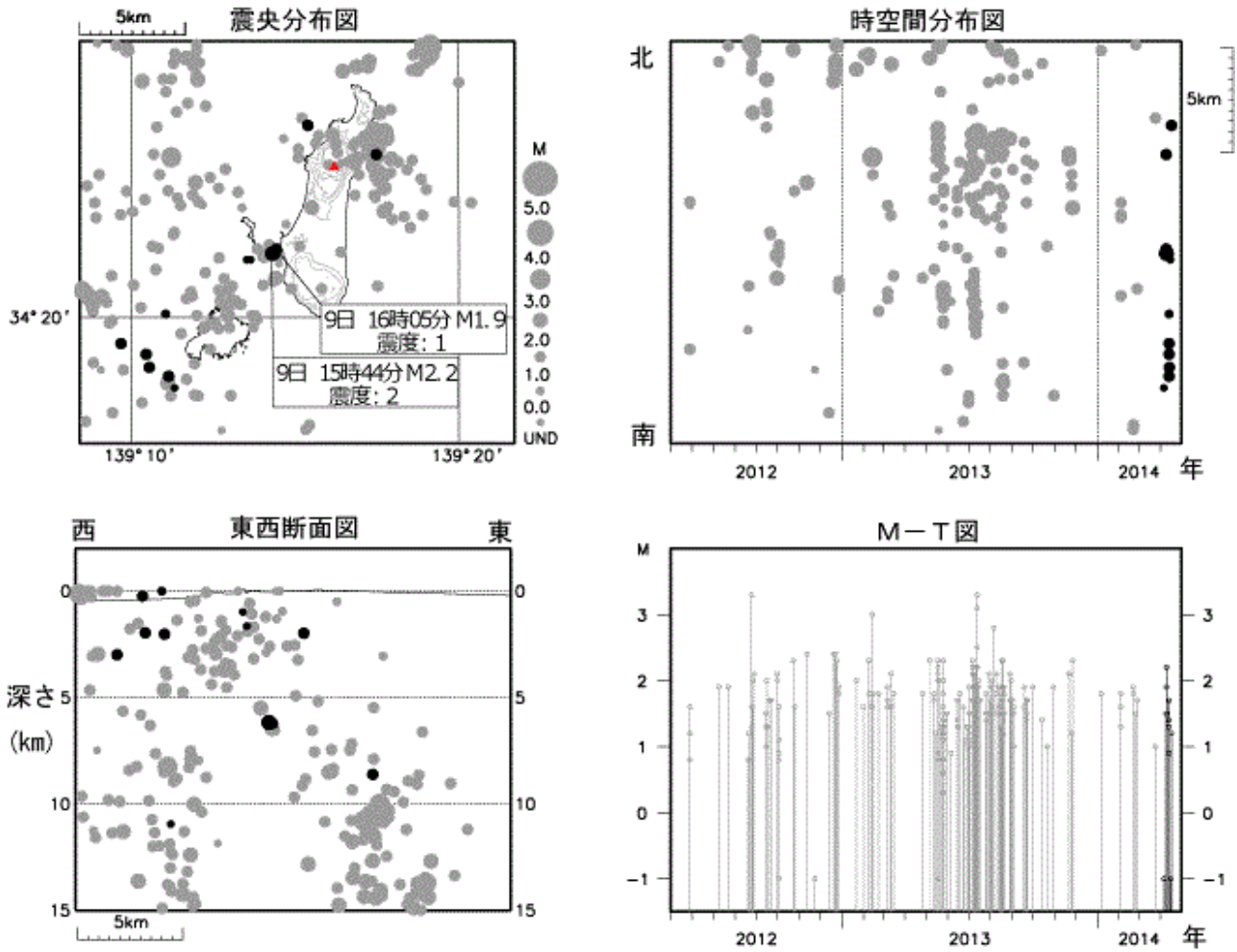


図4 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2012年4月1日~2014年4月30日)
 : 2012年4月1日~2014年2月28日 : 2014年3月1日~3月31日
 M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
 計数対象(瀬戸山南S-P1秒以内)以外の地震が含まれるため、図3 - の日別A型地震回数とは異なります。